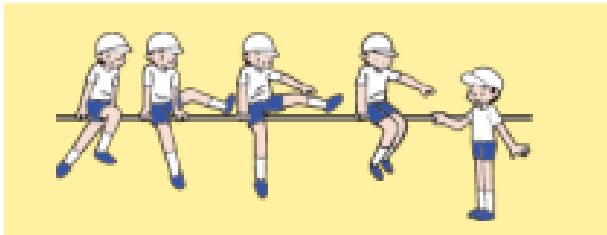
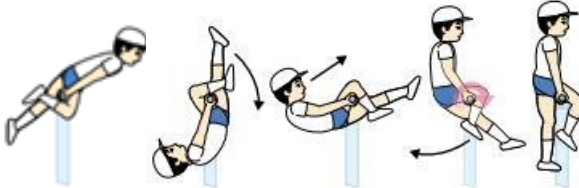


時	1	2	3	4	5	6	7	8	9
目標	【知識及び技能】鉄棒を使つての運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】鉄棒を用いた簡単な遊びを工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組み、順番や決まりを守り誰とでも仲良く運動したり、場の安全に気を付けたりすることができるようになる。								
コア技術	①ひじと背筋を伸ばして回転半径を大きくし、勢いよく倒れこんでいる。 ②目線は倒れるときは前方、地面が見えたらへそを見ている。 ③起き上がるときに手首で鉄棒を押すようにしている。 <u>（逆手の場合）</u> 起き上がるときに手首を返している。 <u>（順手の場合）</u>								
めあて	学習の進め方を知り、学習のめあてを持とう。	転向前下りのポイントを考えよう。	転向前下りをしよう。	鉄棒に膝をかけて上がり、体を振り下ろす練習をしよう。	膝掛けの姿勢から体を前に振り下ろす練習をしよう	ぶら下がりからの膝掛け上がりをしよう。	補助ありの前方片膝掛け回転をしよう。	前方片膝掛け回転をしよう。	学習の成果を発表しよう。
指導内容	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 単元目標の提示 身に付けさせたい力 ・きれいに、正確に、難しい技にもチャレンジしようとする意欲 ・前方片膝掛け回転と転向前下りの技の習得 ・2回連続の前方片膝掛け回転や連続技 ・安全についての意識の向上 3. 前方片膝掛け回転や転向前下りの動画を紹介	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 慣れの運動 ・ひざかけ振り上がり ・膝をかけてスイング ・ 3. 転向前下りのポイントを考える ①両腕で体を支える。（つばめの姿勢） ②片足を前に出す。 ③前に出した方の手を逆手にする。 ④ふり足を横から大きく前に出す。 ⑤鉄棒を握ったまま横を向いて着地をする。 	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 転向前下り 3. 低い鉄棒で膝掛け上がりに挑戦（スモールステップ①） ①地面に片足を着いて膝をかけ、補助で上がる。膝の裏をしっかりと鉄棒にかけておく。 ②一人で膝掛け前上がりをやってみる。地面に片足を着いた状態からつま先立ちか、ちょっとジャンプして上がる。 4. 体を前に振り下ろす練習（スモールステップ②） （1）膝掛けをして安定する （2）膝の裏に鉄棒をかけて体を前に倒す（はじめは肘を曲げてよい。） かかわりあい 補助①…技をする子と同じ側に立ち、肩と腰を支えて持ち上げる 補助②…技をすること反対側に立ち、肩を支える。	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 転向前下り 3. 体の振り下ろし 膝掛けの状態から体を前に倒し、振り下ろす練習をする。 4. ぶら下がりからの膝掛け上がり 片膝を掛け、逆さになり、足を振り鉄棒の上に上がる。 かかわりあい 補助…技をする子と同じ側に立ち、肩と腰を支えて持ち上げる。 声かけ…足を振り下ろすタイミングに合わせて「いーち、にーの、さん！」	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 転向前下り 3. 前方片膝掛け回転 ①つばめの姿勢から片方の足を前に出し、手を逆手にする。（順手でも可だが、すべりやすい。） ②膝の裏を鉄棒にかけ、体を前に倒す。 ③肘と背筋を伸ばし、足を4の字にしてあごは引く。 ④膝を曲げて胸を鉄棒に引きつけ、手首を返して起き上がる。 	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 発表方法の確認 3. 発表会 ・VTRの撮影 ・技の出来映えについて話し合う。 	4. 学習のまとめ 5. 振り返り	4. 学習のまとめ 5. 振り返り	
	指導上の留意点	・体が硬く、足が上がらない児童がいることが予想されるので、跳び箱を使って練習をするなど、安全面に配慮する。 ・後ろにある足がまっすぐ伸びている児童を見本にしながら、技が上手にできるポイントを考えさせる。	・体が硬く、足が上がらない児童がいることが予想されるので、跳び箱を使って練習をするなど、安全面に配慮する。 ・後ろにある足がまっすぐ伸びている児童を見本にしながら、技が上手にできるポイントを考えさせる。	① 体を倒す際に、膝裏が鉄棒にかからない。→片膝を前に出している状態の時にできるだけ膝に近い位置にかけるようにする。 ② 体の振りおろしを怖がってスピードが出ない→持ち手を逆手にして落ちる恐怖感を和らげ、その状態で練習してスピード感に慣れる。	① 体を大きく振ることができない→足の振り下ろしを意識的に大きくする。 ② 上に上がれない→腕での引きつけと手首の返しを練習する。	① 膝の裏を鉄棒にかけられない→体を前に振り下ろす練習で膝裏をかけられるように ② 鉄棒の上に戻ってこれない→ふりあげの練習を逆手でする（1，2回の振りであがれるよう） 連続回転に挑戦 ① 連続で何回も回るポイントを確認。肘、背筋を伸ばし、あごを思いっきり上げる。 ② 最高記録や反対足、両膝かけ前回りなどにも挑戦する。何回連続で回れるか、最高記録に挑戦したり、反対足に挑戦したりする。			
知			①観察・カード		①観察・カード			①観察・カード	②観察・ICT
思			②カード	①カード		①カード	①カード	①カード	②観察・カード
態	③観察	②観察		④観察・カード	⑤観察	④観察	①観察		

単元の評価基準

【前方片ひざ掛け回転／転向前下り（鉄棒運動）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 前方片膝掛け回転，転校下りについて，言ったり実際に動いたりしている。（知識・技能） ② つばめの姿勢から片足を鉄棒の前に出し，背筋・肘・足を伸ばしながら回転加速をして回ることができる。（技能） ③ つばめの姿勢から片足を鉄棒の前に出し，手を逆手にして足を抜いて横向きに着地することができる。（技能）	① 上手くできたところやできなかったところを，学習カードや掲示物などの図に目印や色をつけたり，シールを貼ったりして，自己の能力に適した課題を見付けている。（思考・判断） ② 友達のよい動きを見付けたり，自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。（思考・表現）	① 鉄棒運動の基本的な技である前方片膝掛け回転や転向前下りに進んで取り組もうとしている。 ② 決まりを守り，誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ③ 場の準備や片付けを，友だちと一緒にしようとしている。 ④ 友だちの考えを認めようとしている。 ⑤ 場の安全に気を付けている。

【単元の評価基準を基にした「十分満足できる姿」】

（１）知識・技能

単元の評価基準	「十分満足できる姿」
① 前方片膝掛け回転や転向前下りの行い方について，言ったり実際に動いたりしている。	・ 前方片膝掛け回転の留意点を友達や教師に詳しく伝えたり，カードに書いたりすることができる。
② つばめの姿勢から片足を鉄棒の前に出し，手を逆手にして背筋・肘・足を伸ばしながら回転加速をして回ることができる。	・ 前方片膝掛け回転を連続して行うことができる。

（２）思考・判断・表現

単元の評価基準	「十分満足できる姿」
① 上手くできたところやできなかったところを，学習カードや掲示物などの図に目印や色をつけたり，シールを貼ったりして，自己の能力に適した課題を見付けている。	・ 上手くできたところやできなかったところを，学習カードや掲示物などの図に目印や色をつけたり，シールをはったりして，自己の能力に適した課題の解決方法を見付けている。
② 友達のよい動きを見付けたり，自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。	・ 友達のよい動きや特徴を，擬態語や身振り手振りなど多様な表現を用いて具体的に友達に伝えたり，カードに書いたりすることができる。

（３）学びに向かう力，人間性等

単元の評価基準	「十分満足できる姿」
① 鉄棒運動の基本的な技である前方片膝掛け回転や転向前下りに進んで取り組もうとしている。	・ 転向前下りのポイントを応用して，前方片膝掛け回転を試みようとしている。
② 決まりを守り，誰とでも仲よく励まし合おうとしている。	・ 誰とでも励ましあい，自分の考えを伝えるなど助言をしようとしている。
③ 場の準備や片付けを，友だちと一緒にしようとしている。	・ 場の準備や片付けを率先して行っている。
④ 友だちの考えを認めようとしている。	・ 友達の考えを参考に，技に取り組もうとしている。
⑤ 場の安全に気を付けている。	・ 自分の安全だけでなく，周囲の安全にも気を配っている。